

ねん がつ にち
2024年12月22日

たいこうせつだい しゅじつ
待降節第4主日

きくち いさおすう きぎょう
菊地 功 枢機 卿 メッセージ

たいこうせつ さいご しゅじつ
待降節も最後の主日となり、まもなく主の降誕の日を迎えます。日々の生活の中でも、
クリスマスや年末年始が近づくとこの時期、様々な準備に心を裂くことが多いかと思
いますが、最後の数日間、主の降誕のお祝いに向けて、霊的な準備も怠らないように心掛
けたいと思います。

だいよんしゅじつ さいしょ ろうどく
第四主日に最初に朗読されるミカの預言には、エルサレム近くの小さな町ベツレヘムか
らイスラエルを治めるものが現れると記されており、「主の力、神である主の御名の威厳
を持って」治める王の支配こそが、平和であると述べています。すなわち、誕生する幼子
が支配する世界こそ、神の平和が実現している状況です。

だいに ろうどく
第二の朗読のヘブライ人への手紙は、新約の契約は「御心を行うために」誕生された主
イエスご自身のいけにえによってただ一度で成し遂げられているのであり、キリストを信
じるものはその救いのために形式的な祈りを捧げ続ける必要はなく、すでに聖なるもの
とされていることを自覚し、その自覚のうちに生きることが必要であると指摘します。

ふくいん みづか おどろ うんめい ほんろう
ルカ福音は、自らの驚くべき運命に翻弄されながらも、しかし、助けを必要としてい
る他者への心配りを忘れず積極的に行動する聖母の姿を記します。聖母マリアのエリ
ザベトご訪問です。

せいぼ
聖母マリアのこのご訪問に触れて、教皇フランシスコは「福音の喜び」の終わりに、「マ
リアは・・・すぐに動かれる聖母、人に手を貸すために自分の村から『急いで』出掛け
る方です。正義と優しさの力、観想と他者に向けて歩む力、これこそがマリアを、福
音宣教する教会の模範とするのです(288)」と記しています。その上で教皇は、「聖霊
とともにマリアは民の中につねにおられます。マリアは、福音を宣べ伝える教会の母で
す。・・・教会の福音宣教の活動には、マリアという生き方があります。というのは、
マリアへと目を向けるたびに、優しさと愛情の革命的な力をあらためて信じるように

なるからです」(288) と記^{しる}しておられます。

わたしたちが待^まち望^{のぞ}んでいる救^{すく}いは、形^{けい}式^{しき}的^{てき}な崇^{すう}敬^{けい}を繰^くり返^{かえ}すことによ^{じつげん}って実^{じつ}現^{げん}するの
ではありません。それは、福^ふ音^くの到^{とう}来^{らい}が待^まち望^{のぞ}まれている地^ちへ出^で向^むいてい^{かみ}って、神^{かみ}の望^{のぞ}
ま^{ちつじょ}れる秩^{ちつ}序^{じょ}を打^うち立^たて平^{へい}和^わを生^うみ出^だすことによ^{じつげん}って、わたしたちのう^ちに実^{じつ}現^{げん}します。
聖^{せい}母^ぼはその模^も範^{はん}を示^{しめ}し、主^{しゅ}ご自^じ身^{しん}がその道^{みち}程^{のり}をと^{あゆ}もに歩^{あゆ}んでくだ^さいます。